

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873300511		
法人名	有限会社 カサブランカ		
事業所名	グループホームカサブランカ大宮		
所在地	常陸大宮市石沢1595 (電話) 0295-53-5675		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年6月25日

## 【情報提供票より】(平成19年11月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人	
職員数	20 人	常勤 8人, 非常勤 12人,	常勤換算 17人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2階 造り
	2階建ての1・2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (250,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要(平成19年11月17日現在)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護1	0	要介護2	5
要介護3	9	要介護4	0
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 87.7 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高瀬医院 一貫堂クリニック 大串歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットのうち、本館はリフォームした木造民家であり、顔が見える安らぎの空間を醸し出している。  
 管理者は福祉に熱意をもち、リーダーシップを発揮して家族ともども利用者本位のケアに向けて努力している。  
 子どもの声がにぎやかに聞こえるなど、アットホームな雰囲気を大事にして地域のなかに根付いているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価において指摘された「利用者本位の介護計画作成」などの項目について、ケアカンファレンスを充実するなど改善にむけて職員全員で取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員と管理者で話し合いながら自己評価に前向きに取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:4、5、6) 運営推進会議を定期的開催し、会議で出された意見を参考に、文化祭や産業祭の催しものに利用者の作品を出品している。 利用者の入院に対して、市担当者に相談している。 行政職員の実習を積極的に受け入れている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 体調などに変化があった場合には、随時、電話などで様子を伝えている。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族会などの場で利用者や家族に不満や苦情を積極的に受け入れることを伝えているが、意見の表出までには至っていない。 利用者や家族は、不満・苦情を言い出しにくいという状況をふまえ、ホーム便り等で外部機関や家族会の苦情・不満受付窓口を積極的にPRするとともに、重要事項説明書に相談・苦情窓口と担当者について明示することが望まれる。 月末に請求書や金銭出納帳とともに、暮らしぶりを伝える手紙や写真を郵送している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の人々が野菜を届けながら、お茶飲み立ち寄りしてくれる。 市民文化祭に、パッチワーク・のれんなど利用者の作品を出品している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に、「アットホームな雰囲気」という言葉を取り入れ、家庭的な環境の下で過ごせることを目指している。 また、スローガンのなかに、「地域とともに歩む」という言葉を取り入れて地域交流を目指している。	○	運営理念のなかに、スローガンで謳っている「地域住民との交流」という観点を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティングの際に、職員全員で理念を読み上げるとともに、実践の場で理念を意識してケアにあたっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人々が野菜を届けながら、お茶飲みに立ち寄ってくれる。 市民文化祭に、パッチワーク・のれんなど利用者の作品を出品している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価において指摘された「利用者本位の介護計画作成」などの項目について、ケアカンファレンスを充実するなど改善にむけて職員全員で取り組んでいる。 職員と管理者で話し合いながら、自己評価に前向きに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的を開催し、会議で出された意見を参考に、文化祭や産業祭の催しものに利用者の作品を出品している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入院に際して、市担当者に相談している。 行政職員の実習を積極的に受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に請求書や金銭出納帳とともに、暮らしぶりを伝える手紙や写真を郵送している。 体調などに変化があった場合には、随時、電話などで様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、家族会などの場で利用者や家族に、不満や苦情を積極的に受け入れることを伝えている。 重要事項説明書に相談・苦情等窓口と担当者名が記載していない。	○	利用者や家族は、不満・苦情を言い出し難いという状況をふまえ、ホーム便り等で外部機関や家族会の苦情・不満受付窓口を積極的にPRするとともに、重要事項説明書に相談・苦情窓口と担当者について明示することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットに固定せずに勤務シフトを組むことによって、利用者と顔馴染みの職員を増やすことで、異動の影響を低減している。 職員数を増やすなどの対策により、本人の希望にそった勤務条件とするなどにより、離職を防いでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に介護福祉士に挑戦するよう勧めており、職員も資格取得を目指して努力している。 段階的な研修計画を作成するには至っていない。	○	職員育成の重要性を認識し、全ての職員が地域密着サービスの従事者として質を向上させていけるよう、各自の立場・経験・習熟度の段階に応じた研修計画の策定が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加しているが、管理者の参加にとどまっており、職員が交流するまでには至っていない。	○	地域のグループホーム協会での話し合いで、職員の交流にむけた働きかけを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学してもらい、本人の反応を見ながら利用開始を判断している。 また、体験入居によりホームや利用者の雰囲気等に、馴染んでもらえるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が、利用者から子育てなどを学ぶとともに、そば打ちや懐メロを教わるなどの人間関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>本人の意向把握が困難な場合にも、日々の生活のなかで職員が利用者の意向を把握しつとるに努めている</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段のケアのなかで、利用者の思いや意向を把握しようと努めており、過去の職業歴からプライドを傷つけないようにする・得意である裁縫を生かすなどの課題を設定している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントで設定した課題について、毎月の「ケアカンファレンス」で話し合い介護計画を策定している。</p> <p>介護計画を家族に説明し、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にモニタリングするとともに、3ヶ月に1回介護計画を見直している。</p> <p>退院などの状況・状態の変化に応じて、随時介護計画を見直している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域の人が気楽に遊びに来て過ごせるようなデイサービスの雰囲気をつくるとともに、ショートステイも認可を受けるなど、多機能性を生かすよう努めている。</p>	○	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けていけるよう、地域の社会資源を活用することを提案する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本情報にかかりつけ医を記載して把握するとともに、利用者が希望する病院への通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り介護及び急変時における当ホームの指針」を作成するとともに、終末期の経過を記録している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないよう、名前の呼び方について、家族と相談している。 個人情報保護方針を策定するとともに、利用者及び家族に説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時には利用者のペースに合わせ、ゆっくりと食事を摂れるよう支援している。 休みたいという利用者には、睡眠への障害に配慮しながら、横になってもらっている。	○	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はサラダ作り・配膳・後片付けなどを職員と一緒にしている。 ゆったりとした雰囲気のなかで、食後のコーヒーを楽しんでいる。 近所からいただいた旬のものを随時メニューに取り入れるなど、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みの入浴時間を聞き、利用者の希望にそった入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	パッチワーク・のれんづくり・ゴミ箱づくりなど、一人ひとりの得意なことを見出して楽しんでもらうよう、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーでの買い物やコミュニティホールでのコンサート鑑賞など、日常的に外出できるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関はすべてオープンな状態である。 玄関に出入りを感知するチャイムを設置しているが、音量を低く設定するなど、雰囲気を乱さないよう配慮しながら、見守りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者及び職員が防火管理者研修を受けるとともに、スプリンクラー設置について不明な点を積極的に消防署に相談している。	○	災害発生時に地域からの支援が得られるよう、地域の方の避難訓練見学など地域との連携を強化することを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が食育指導士を取得するとともに、保健所の管理栄養士のアドバイスを受けながらメニューを検討している。 食事や水分の摂取量を記録管理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に畳椅子やソファを配置するとともに、熱帯魚やガーデニング等で自然な生活感づくりに努めている。 全体に木造の良さを取り入れた作りとなっており、特に旧館は古民家風で、やすらぎを感じる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんす・家族写真・ミシンテーブルが持ち込まれるなど、本人が安心できる空間づくりに努めている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。